

造林補助実績から見た獣害対策の傾向

大洞智宏（岐阜県森林研）

ニホンジカの生息域は、岐阜県内においても徐々に広がっており、造林地での獣害対策が不可欠となっている。そこで、県内での獣害対策の実績、獣害対策への意識について把握を試みた。獣害対策の補助実績は、造林実績により差があるものの、近年は増加傾向であった。特に、平成29年度から単木資材への補助率が100%になったため、単木資材の実績が増加していた。聞き取り調査では、防除資材の選択について「シカ柵が破損した場合は、柵内全体が被害を受けるため、単木資材の方が破損に対するリスクが低い」との回答があった。獣害対策の実施や資材の選択に対しては、自然条件が大きく影響するが、実施にかかる自己負担などのコストにも影響されていると考えられた。

キーワード：獣害、造林補助金、被害対策

I はじめに

近年、長伐期施業による主伐先送りから皆伐再造林へと方針転換が図られつつある(2)。そんな中、ニホンジカの生息域は岐阜県内においても徐々に広がっており、第二種特定鳥獣管理計画(ニホンジカ)第2期の目撃効率(SPUE)の状況(1)では、ほぼ全県下で目撃報告がされており、植生などに対する影響が危惧されている。また、獣害対策を実施しなければ、造林木への被害が重篤となり成林が危ぶまれる地域も多く、森林所有者は、獣害による成林阻害や被害対策費用の増加への不安を抱えている。このような状況から、林業経営意欲の減退により皆伐後の再造林が実施されない事例の増加が危惧されている。

そこで、本研究では、岐阜県内における獣害対策の実績、造林時の獣害対策への意識などについて把握を試みた。

II 調査方法

1. 獣害対策の実施実績調査

岐阜県で実施された平成23年度から平成30年度までの造林補助事業の中から、主にニホンジカ、ニホンカモシカによる食害防止のために実施された作業(獣害防止柵設置、ツリーシェルター(以下、単木資材)設置、忌避剤使用)実績数(実施林小班数)を獣害防止対策補助実績数(以下、補助実績)として集計した。なお、獣害対策への造林補助事業の実績については、岐阜県林政部森林整備課より提供を受けた。

2. 獣害対策への意識調査

岐阜県内の林業事業体のうちシカの生息密度が比較的高い地域(西濃、中濃北部、飛騨南部)の3事業体(A, B, C)に獣害対策実績や対策の選択方法などについて聞き取り調査を行った

III 結果と考察

1. 獣害対策の実施実績

岐阜県の獣害対策の補助実績を図-1に示す。平成25、26年度で補助実績が減少しているものの、近年は増加傾向であった。岐阜県の造林面積と補助実績の関係をみると(図-2)比例関係にあり、補助実績の少なかった平成25、26年度は造林面積も少なかった。獣害防止対策の種類別の実績については、平成30年度に忌避剤の使用実績が突出して多くなっていたがその要因は不明であった。また、平成29年度から単木資材の設置実績が増加していた。このことは、同年度から単木資材の補助率が100%になったことが影響していると思われる。

市町村ごとの補助実績の推移を図-3に示す。平成30年度の郡上市での実績が突出して多かった。補助実績は郡上市や山県市のように増加傾向の市町村もあるが、実績のない市町村や、中津川市のように減少傾向の市町村も見られた。このように市町村ごとに実績量の傾向が異なるのは、毎年の造林面積の増減の影響に加え、広域合併により各市町村の行政域が広がったことで、同一市町村内でも生息密度の偏りが大きく、生息密度の低い地域では獣害防除を行わず造林を実施する場合もあるためと考えられた。

2. 獣害対策への意識

防除資材の選択については「シカの少ない地域では忌避剤を利用する(事業体B)」。また、「積雪が多い地域では柵より単木資材(ネット状でないもの)を選択する(事業体B)」との回答があった。単木資材を選択する理由として、「シカ柵が破損した場合は、柵内全体が採食被害を受けるため、単木資材の方が破損に対するリスクが低い(事業体A, B)」と考えているようであった。この回答は、倒木などによる柵の破損も想定しての回答であり、積雪のない地域にも当てはまると考えられた。平成29年度以降に単木資材が増加していることについては、「補助率が

OBORA Tomohiro

Trends in mammal damage control based on the results of subsidy for plantation

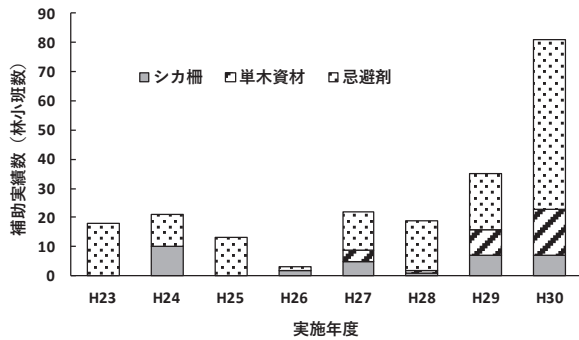
obora-tomohiro@pref.gifu.lg.jp

100%になったことがきっかけ（事業体 A, B, C）」との認識であった。現在、獣害防止柵の修繕に関する経費は60%補助されるが、「森林所有者の中には自己負担を嫌って、破損があっても修繕を実施しないケースもある（事業体 A, C）」との回答があった。

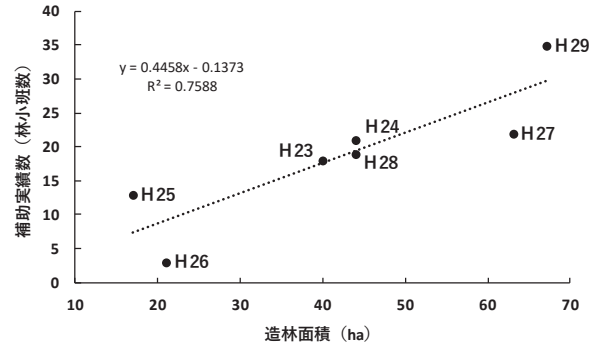
以上のことから、獣害対策の実施や資材選択に対しては、自然条件（シカ密度、積雪等）が大きく影響するが、実施にかかる自己負担のコスト（設置、修繕）にも影響されていると考えられる。

引用文献

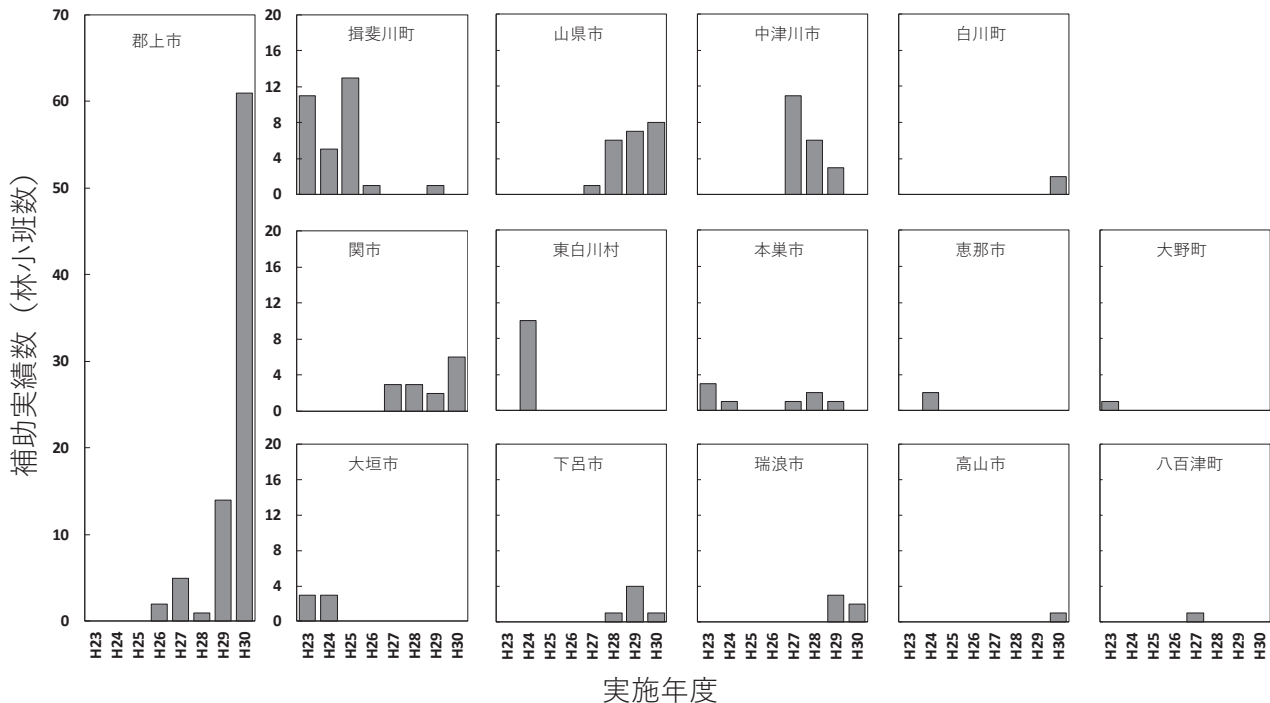
- (1) 岐阜県 (2016) 第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）第2期
- (2) 林野庁 (2019) 平成30年度森林・林業白書



図一1. 年度別獣害対策補助実績



図一2. 造林面積と獣害対策補助実績の関係



図一3. 市町村別獣害対策補助実績の推移